

6月13日に「令和6年度市町老連会長及び事務担当者研修会」及び「単位クラブ新任会長及び新任事務担当者研修会」を開催しました。以下、概要を報告いたします。

市町老連会長
事務担当者
研修会

“孤独にならない、孤独にさせない！” 人と人がつながる地域づくりを！

◆「人と人が「つながり」、誰ひとり取り残さない社会を目指して」 栃木県保健福祉課地域福祉担当 副主幹 佐藤美希 氏

「孤独・孤立対策推進法」

→ 「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」、
「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」を目指す
※「孤立・孤独」の状態は、人生のあらゆる場面で誰にでも生じるもので、その状態は多岐にわたり、問題の解決には、“社会全体”での対応が必要であるため、県では今後、官民地方公共団体と、NPO等の支援団体、地域住民、企業等が連携・協議を図っていく場（プラットフォーム）を設置し、様々な施策を推進していく方向であると説明がありました。

多彩なクラブ活動
を通じて、地域づ
くりへの協力を！



栃木県保健福祉課
佐藤副主幹

◆「仲間とつながり続けるために～生涯会員制度～」 鹿沼市老連:副会長 寺崎尚美 氏

「生涯会員制度」は、病気や高齢により退会を余儀なくされた仲間をつなぎ止める、会員以外の地域の方々を勧誘するという視点で創設されました。

その他、①市内全域の自治会への働きかけ、②会報の配付（1会員に2部）、③鹿沼市民大学の開設、④なんでも相談室がありますが、すべては「会員増強運動」につながっていて、さらに今年度は、“かぬま宣言”として『老人よ“大志”を抱け』のスローガンを鹿沼から全国に発信する取り組みをはじめたと報告がありました。

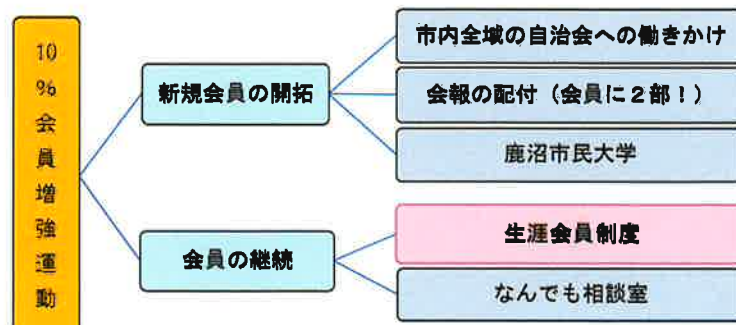
これからの地域
社会は老人クラブ
が主導する！



鹿沼市老連
寺崎副会長

◆ 鹿沼市老連の基本姿勢と取り組み

「気づき」～「発想し」～「行動(考動)する」



単位クラブ
新任会長・新任
事務担当者研修会

自治会との一体的な取り組みや 地域との交流で会員増に！

◆「仲間とつながり続けるために～生涯会員制度～」鹿沼市老連（※内容省略。前ページ参照）

◆「あの手、この手で会員増強！」小山市老連:美しが丘友の会 会長 関口義雄 氏(会員数42名)
令和4年から会員数が増加 (R3.6:10名 → R6.3:42名)

様々な工夫で会員が
増えてきました！



美しが丘友の会
関口会長

〔ポイント〕■ 「特別会員制度」の創設

クラブ会員の要件が自治会会員となっており、高齢化等を理由に自治会(=老人クラブ)を退会する世帯が増えていたが、自治会の班長や役職を免除する「特別会員制度」を創設したところ、自治会に戻ってくる世帯が多くなり、クラブ会員の増加にもつながっている。

■ お楽しみ会(ラジオ体操、健康講座、ドラマ鑑賞、輪投げ、カラオケタイム)を自由参加としたこと、ロコミ、おためし参加、会員募集チラシの回覧、Wi-Fiの設置等の取り組みにより、会員増につながっていると報告がありました。

◆「部会の充実でクラブが元気！」宇都宮市老連:東町れいわ乃会(会員数71名)

多様な取り組みで仲間づくりを推進 地域交流で若手会員が加入

〔ポイント〕■ 文化・仲間作り・奉仕部会活動

令和元年～2年度にかけ3つの部会を立ち上げ、定期的に活動を展開している。特に活発な文化部会では「日本人の心 文学散歩」というテーマで論語などについて勉強会を実施している。

■ 地域交流

クラブ会員だけでなく、近隣住民の参加を受け入れるなど、積極的に地域との交流を図ってきた結果、50歳代の若手新規会員が複数入会し、雰囲気明るくなり、クラブが活性化していると報告がありました。〔平成5年度全国老人クラブ連合会会長表彰(活動賞)受賞団体〕



コロナ禍の影響などにより、孤独・孤立の問題が深刻化していると言われる今こそ、活動報告の会員増強のヒントなども活かし、それぞれの地域の実情に合わせた「仲間づくり」をさらに進め、一人ひとりがお互いに支え合い、笑顔で暮らすことができる地域づくりに取り組んでいきましょう！

※単位クラブ新任会長研修会で活動報告をいただく予定であった東町れいわ乃会:馬場廣会長が研修会直前に急逝されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

(一財) 栃木県老人クラブ連合会事務局

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町 3337-1 とちぎ健康の森2階

TEL 028-621-4787 FAX 028-621-4767

E-mail tochi-ikiiki@tochigirouren.or.jp